

言葉の力 「年をとればとるほど大きな人間になる」 そういう生き方をしてほしい。  
今は、数年程度の先の読めるものにしか興味を持たないように育てられている。  
それではあまりにかわいそうです。見果てぬ夢に生きてほしい」（河島信樹）

松陽便り 第193号

1年生 校外学習（オペラ）

11月9日（木）1年生が校外学習を実施しました。

平素と異なる環境に接して見聞を広め、芸術鑑賞をとおして豊かな心を養う、また、集団行動をとおして、生徒同士の人間関係を深め、自立心を育むことを目的として行うものです。

今回は、日生劇場において、オペラ『ドヴォルザーク作曲 オペラ『ルサルカ』全3幕』を鑑賞しました。（チェコ語原語上演・日本語字幕付）指揮：山田和樹，演出：宮城 聡，管弦楽：読売日本交響楽団，合唱：東京混声合唱団

### 第1幕

「月が輝く湖のほとり。湖を取り巻く岸辺では、3人の森の妖精達が楽しげにダンスを踊っている。いたずら好きな妖精達は、水底に住む『水の精たちのお父さん』をからかっている。呼び掛けに応じるかのように登場した『水のお父さん』は、彼女達をつかまえようとするが、3人は大はしゃぎしながら逃げて行く。

水のお父さんは、柳の上に腰掛けている末娘のルサルカに気付く。（※実の娘ではなく『娘がわり』とも考えられる。）ルサルカの様子をいぶかる父親に彼女は『人間になりたい』気持ちを打ち明ける。驚く父親に、ルサルカは湖に水浴に来る王子への恋心を打ち明ける。

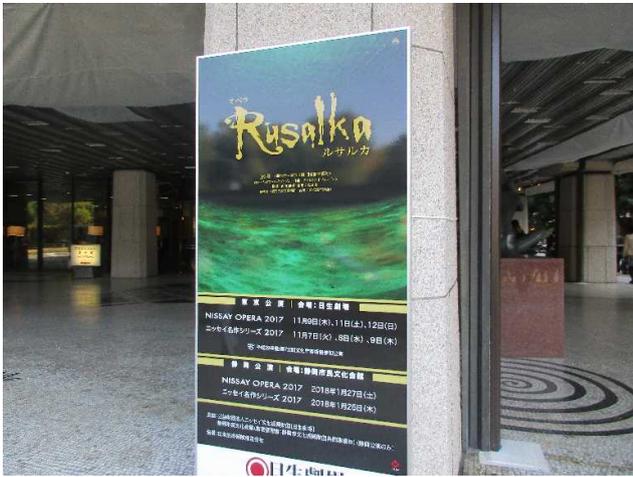
水のお父さんは娘の翻意を促すが、決意を変えられないと悟ると『かわいそうに！』と叫びながら水中に去る。一人残されたルサルカは、銀色に輝く月に託して王子への想いを歌う。（「月に寄せる歌」・・・」（オペラ対訳プロジェクトより）



日比谷公園に集合です。



いよいよ入場です。



総指揮の方から中島学年主任に  
「鑑賞態度が素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいたそうです。